

東南アジア視察記 (二)

町会議員 渡辺 喜久雄

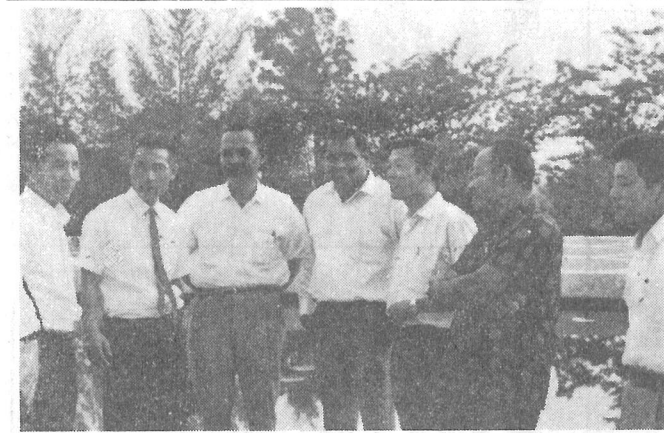
十七階建の議事堂

十七日マレーシアのクワラルンプールに着、酷暑の中を黒人ガイドの案内で市中見物をしました。当地の産物はゴムと錫であるとのこと、或る大ゴム園を見物しました。次いで国立大学に行きましたが、その学生は大部分がオートバイで通学しており、その車種は日本のホンダと鈴木製の品が多いように見受けました。更に国会議事堂と議員宿舎を見物しましたが、両建物とも十七階建の豪壮なものでした。一日の予定を終えてホテルに着いたとき、暑さのため五人程病人が出ましたので、医師を頼んだところ、その診療費の高いこと、一人当り五、六千円もとられ驚ろきました。

青年議員と交歓

十八日国会の見学。折りよく開会中で、傍聴することができました。議員定数は百四十三名、審議中の議員は四十名位。ユツクリのんびりと審議が進められていました。

此処で文部大臣と国会議員数名と面接したあと、独立記念塔の前で昭和八年生れの現地議員と吾々一行との交歓が



(上) クワラルンプール独立記念塔前で青年市会議員に囲まれて交歓する渡辺議員 (左から二人目)
(下) バリ島の海浜風景

行われ、お互いの将来を期待しあって堅い握手を交わし、記念撮影をして別れました。言葉こそ違え同じアジアの青年議員同志として血の通い合うのを感じました。ここ、クワラルンプールは日本の箱根のような所で、緑の芝生、深い谷、ほんとうに鮮やかな色彩の土地でした。この地にある日本人墓地に吾々一行は詣でて、異境に眠る同胞の霊に深く深く頭を垂れたのであります。

日本女性のガイド

十九日シンガポール着。空港で知事さんへの土産に極楽鳥の刺繍を買いたい、観光バスで市内見物をしました。パスガイドが思いもかけない柳和子さんという日本女性であったのと、その親切な接待を受けたのでひとしお感銘を深くしました。そのせいでもあるまいが、一行はここで一斉に



郷里への便りを書き初めました。シンガポールは一九五七年八月、英連邦の一員として独立した国で、熱帯に位置し一年を通じて気温の変化は少なく、二十度から三十一度までの間を上下しているとのことです。シンガポール市は世界最大

戦争賠償金でホテル

インドネシアの空港に着いたのは夕方でした。日本円での税関の検査は厳重を極め、銃を構えた警備員の前で入国の検査を受けました。宿舎ホテルインドネシアに案内されましたが、十五階建の豪壮な建物で、これは日本の戦争賠償金で建設された国営のホテルであると聞かされました。

経済面を牛耳る華僑

翌日はバリ島訪問。ここはアジアのハワイと呼ばれる観光地、世界各地からの観光客で賑わうところで、ヤシ林の中に海に面して建てられたビーチホテルのモダンな建物が印象的でした。

翌朝シンガポールへ帰着、山下奉文の遺跡を訪ねました。シンガポールの政治は国の機関が握っていても、経済の面は華僑の掌中にあることが吾々の目に強く印象づけられました。前大統領スカルノ氏が金権に陥って共産側についてと言われていますが、今現実には華僑のこの勢力を目にして私はさもありなんとの感を深くしました。

県警察官を募集

県では目下、警察官の募集を行っています。採用人員は約一五〇名。受験資格は、昭和十六年七月二日から同二十六年十月一日までに生れた男子で、高等学校卒業程度以上の学力のある者、体格は身長一米六〇センチ以上、体重四八キロ以上となっています。

受験の受付けは昭和四十四年四月一日から同八月二十日までです。試験日は五月から八月まで各月の第三水曜日、県警察学校が試験場になっており、大学卒業者がA試験、その他の者がB試験を受けることになっています。

なお詳細については県警察本部、警察署または派出所にお問い合せ下さい。